

# 長崎県感染症発生動向調査速報（週報）

2024年第18週 2024年4月29日（月）～ 2024年5月5日（日） 2024年5月9日作成

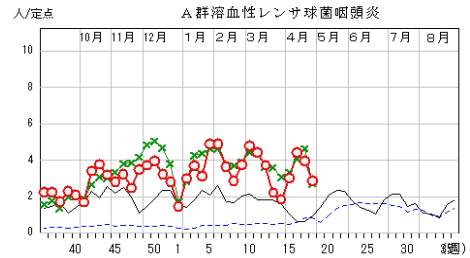
☆定点<sup>※</sup>報告疾患（定点当たり報告数の上位3疾患）の発生状況

## （1） A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

第18週の報告数は126人で、前週より44人少なく、定点当たりの報告数は2.86であった。

年齢別では、10～14歳（22人）、4歳（15人）、5歳（15人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、県南保健所（10.40）、県央保健所（4.43）であった。

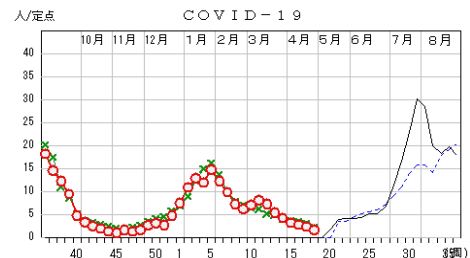


## （2） 新型コロナウイルス感染症

第18週の報告数は118人で、前週より49人少なく、定点当たりの報告数は1.69であった。

年齢別では、80歳以上（18人）、60～69歳（16人）、70～79歳（15人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、上五島保健所（5.00）、県南保健所（3.50）、県北保健所（2.75）であった。

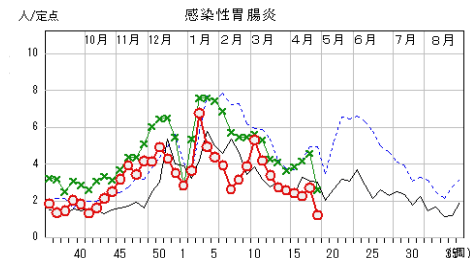


## （3） 感染性胃腸炎

第18週の報告数は54人で、前週より63人少なく、定点当たりの報告数は1.23であった。

年齢別では、10～14歳（8人）、8歳（6人）、20歳以上（6人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、佐世保市保健所（2.83）、県央保健所（2.29）、県南保健所（2.00）であった。



○ 当年(長崎県)      前年(長崎県)  
× 当年(全国)      前年(全国)

※インフルエンザ/COVID-19定点数：70、小児科定点数：44、眼科定点数：8、基幹定点数：12

## ☆上位3疾患の概要

### 【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】

第18週の報告数は126人で、前週より44人少なく、定点当たりの報告数は2.86でした。地区別に見ると県南地区（10.40）は、警報レベル開始基準値「8.0」を超えています。今後も予防に努めましょう。

本疾患の好発年齢は5歳から15歳で、鼻汁、唾液中のA群溶血性レンサ球菌を含む飛沫などによってヒトからヒトへ感染します。また、食品を介しての経口感染もあります。潜伏期間は約1日から4日で、突然の発熱（高熱）、咽頭痛、全身倦怠感、時に皮疹もあります。急性期患者の感染力は強いですが、適切な抗菌薬の投与により、多くは1日から2日後には症状も消失し、感染力も著しく低下します。不十分な治療は無症状保菌者を生じやすいため、早めに医療機関を受診するとともに、手洗いを励行し、感染防止に努めましょう。

【新型コロナウイルス感染症】

第18週の報告数は118人で、前週より49人少なく、定点当たり報告数は1.69でした。地区別では、上五島地区（5.00）、県南地区（3.50）、県北地区（2.75）は他の地区より多くなっています。県全体では7週続けて減少しましたが、今後も動向に注意しましょう。

本疾患の主な症状は、発熱、咳、全身倦怠感等の感冒様症状で、主に飛沫感染や接触感染により感染します。場面に応じたマスクの着用や手洗い、換気、三密の回避などの基本的な感染対策に努めましょう。

【感染性胃腸炎】

第18週の報告数は54人で、前週より63人少なく、定点当たりの報告数は1.23でした。地区別にみると佐世保地区（2.83）、県央地区（2.29）、県南地区（2.00）は、他の地区より多くなっています。

本疾患は、細菌又はウイルスなどの病原微生物による嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。原因はノロウイルスやサポウイルス、エンテロウイルス、アデノウイルスなどのウイルス感染による場合が主流ですが、腸管出血性大腸菌などの細菌が原因となる場合もあります。

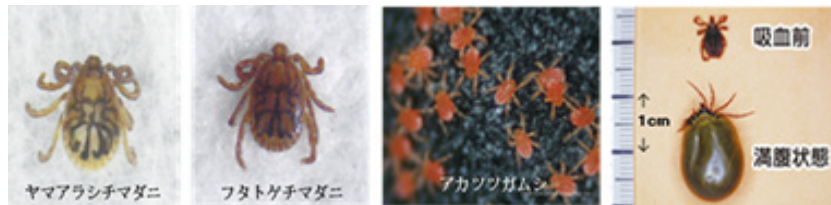
手洗いの励行とともに、体調管理に注意して感染防止に努め、早めに医療機関を受診しましょう。

**☆トピックス：マダニやツツガムシが媒介する感染症に注意しましょう**

マダニ類やツツガムシ類は、野外の藪や草むらに生息しているダニで、野生動物が出没する環境に多く生息しているほか、民家の裏山、裏庭、畑やあぜ道などにも生息しています。マダニ類は「日本紅斑熱」や「重症熱性血小板減少症候群（SFTS）」を媒介し、ツツガムシ類は「つつが虫病」を媒介します。これらの感染症の報告数は、ダニの活動が活発になる3月から11月に増加します。

マダニ類が媒介するSFTSは、発熱、消化器症状が主な症状で、重症化して死亡することもあります。県内では2024年第18週までに5件の報告があり、例年の同時期より多くなっています。近年、SFTSを発症したネコ及びイヌの症例が確認されており、これらの動物の血液や糞便からSFTSウイルスが検出されています。SFTS以外の感染症に対する予防の観点からも、動物を飼育している場合は過剰な触れ合いを控え、動物由来の感染に注意しましょう。

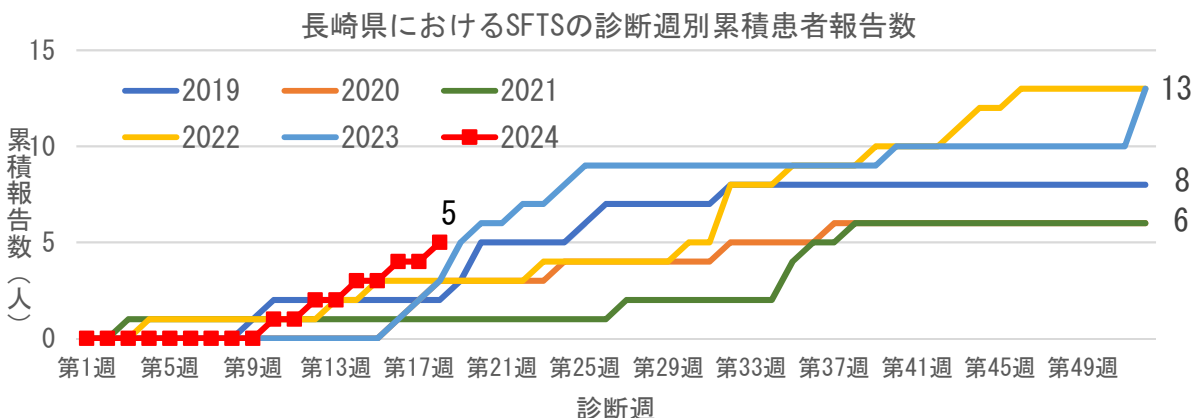
マダニ等が媒介する感染症の予防には、ダニに咬まれないことが重要です。野外で活動する際は、長袖、長ズボン、長靴を着用するなどして肌の露出を極力避けて感染防止に心がけましょう。もし、マダニ等に咬まれていたことに気づいた場合、無理に取り除こうとせず、皮膚科等の医療機関で適切に処置してもらいましょう。また、咬まれた後に発熱等の症状があった場合は、速やかに医療機関を受診しましょう。受診した医療機関では、咬まれた状況などをできるだけ詳細に説明しましょう。



長崎県におけるダニ媒介感染症の発生件数

年	2019	2020	2021	2022	2023	2024
SFTS	8 (2)	6 (3)	6 (1)	13 (3)	13 (3)	5
日本紅斑熱	15 (1)	18 (0)	28 (4)	22 (1)	14 (2)	3
つつが虫病	1 (0)	11 (0)	14 (0)	7 (0)	15 (2)	1

※( )は第18週までの発生件数



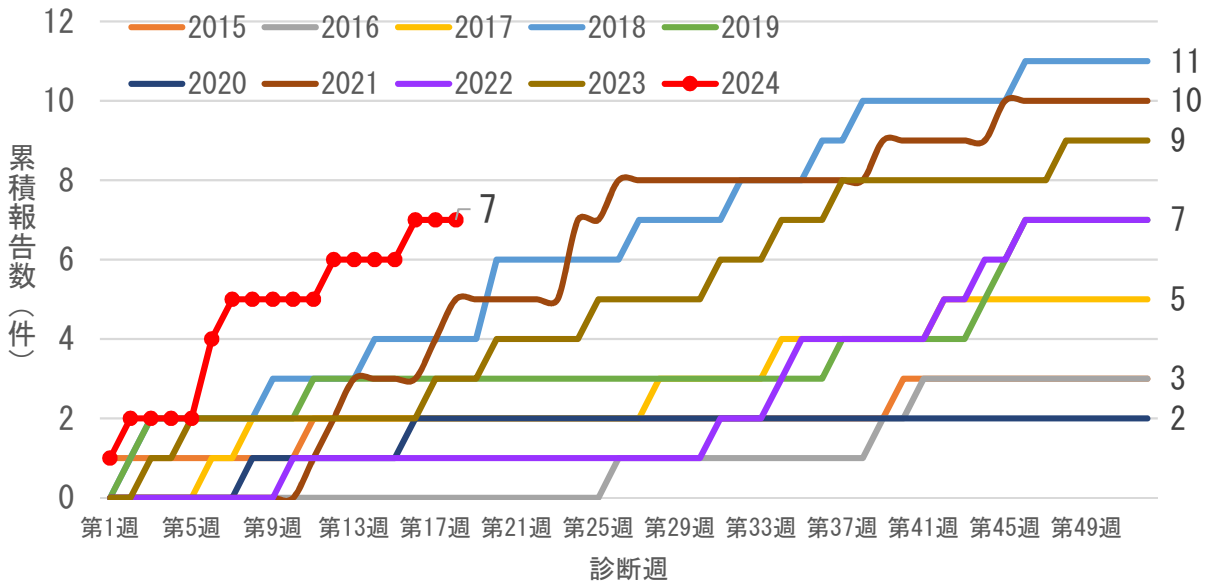
★トピックス：劇症型溶血性レンサ球菌感染症の報告が増加しています

劇症型溶血性レンサ球菌感染症（streptococcal toxic shock syndrome: STSS）は、溶血性レンサ球菌（いわゆる溶連菌）による感染症です。溶連菌は、一般的には急性咽頭炎などの原因となる細菌ですが、稀に通常は細菌が存在しない組織（血液、筋肉、肺など）に侵入して急激に症状が進行する劇症型溶血性レンサ球菌感染症を引き起こすことがあります。

本疾患の初発症状は咽頭痛、発熱、消化管症状、全身倦怠感、筋痛などですが、明らかな前駆症状がない場合もあります。発病から数十時間以内にショック症状、多臓器不全、呼吸不全、壊死性筋膜炎などを起こし、死に至ることもある感染症です。

感染経路は不明な場合が多いですが、飛沫感染や接触感染のほか、傷口から感染することもあります。感染を防ぐためには手洗い等の基本的な感染対策と傷口を清潔に保つことが重要です。

長崎県におけるSTSS報告数の診断週別累積報告数



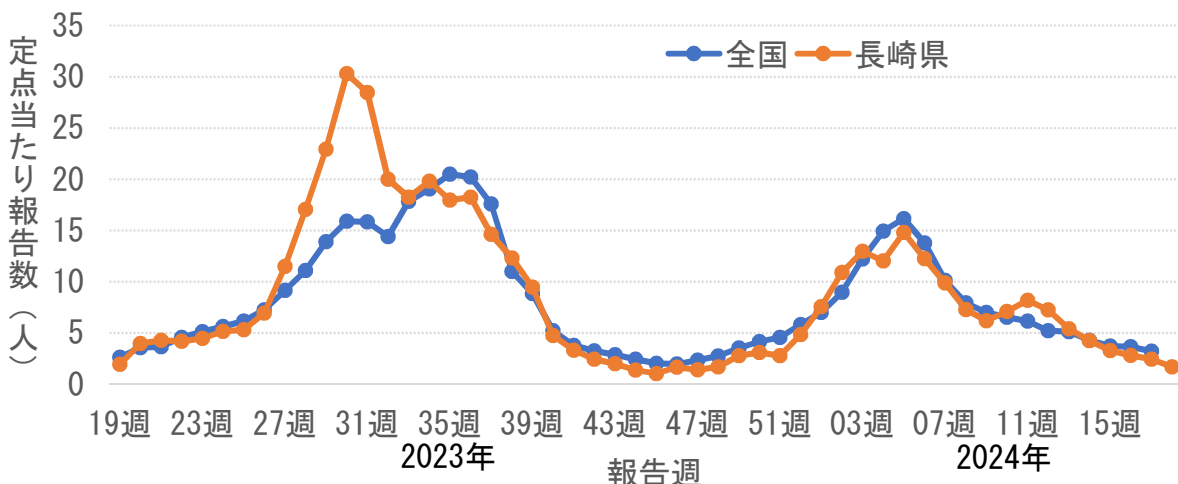
★トピックス：新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行して1年がたちました

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、2023年5月8日より、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」における類型が定点把握対象の5類感染症に変更されました。2023年5月8日以降は、県内の人口等を勘案して選定された70医療機関（インフルエンザ/COVID-19定点）から、1週間（月～日曜）にCOVID-19と診断された患者数が週に1回報告されています。

2023年7月～9月、2024年の1月～2月に、定点当たり報告数の増加がみられましたが、3月以降減少が続いています。

今後も場面に応じたマスクの着用や手洗い、換気、三密の回避などの基本的な感染対策に努めましょう。

新型コロナウイルス感染症 定点当たり報告数推移



◆全数届出の感染症

- 2類感染症：結核 患者 男性（70代・1名）  
無症状病原体保有者 男性（70代・1名）
- 3類感染症：腸管出血性大腸菌感染症 患者 女性（10歳未満・1名）
- 4類感染症：重症熱性血小板減少症候群 患者 男性（80代以上・1名）
- 5類感染症（全数把握対象）：梅毒 患者 男性（30代・1名）

◆定点把握の対象となる5類感染症

(1) 疾病別・週別発生状況 (第13～18週、3/25～5/5)

疾患名	定点当たり患者数					
	13週	14週	15週	16週	17週	18週
	3/25～	4/1～	4/8～	4/15～	4/22～	4/29～
インフルエンザ	11.54	4.87	2.30	1.40	0.90	0.53
新型コロナウイルス感染症	5.41	4.23	3.26	2.80	2.42	1.69
RSウイルス感染症	0.19	0.35	0.61	0.48	0.84	0.43
咽頭結膜熱	0.91	1.30	1.14	1.43	1.12	0.84
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	2.21	1.84	3.02	4.43	3.95	2.86
感染性胃腸炎	2.74	2.58	2.43	2.27	2.72	1.23
水痘	0.09	0.07	0.16	0.09	0.16	0.02
手足口病	0.26	0.23	0.41	0.68	0.51	0.68
伝染性紅斑（リンゴ病）		0.02		0.02	0.02	
突発性発しん	0.26	0.23	0.30	0.41	0.23	0.18
ヘルパンギーナ					0.05	
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）		0.07		0.05		0.02
急性出血性結膜炎			0.13			
流行性角結膜炎	0.50	0.38	0.75	0.38	1.00	0.38
細菌性髄膜炎					0.08	
無菌性髄膜炎						
マイコプラズマ肺炎	0.08		0.08	0.25	0.08	0.08
クラミジア肺炎（オウム病は除く）						
感染性胃腸炎（ロタウイルス）						

(2) 疾病別・保健所管内別発生状況 (第18週、4/29～5/5) ※赤字：警報レベル、青字：注意報レベル

疾患名	定点当たり患者数（県・保健所管轄別）										
	県	佐世保市	長崎市	壱岐	西彼	県央	県南	県北	五島	上五島	対馬
インフルエンザ	0.53	1.09	0.82			0.36	0.50	0.50	0.25		
新型コロナウイルス感染症	1.69	2.00	1.06	0.67	1.00	1.09	3.50	2.75		5.00	1.33
RSウイルス感染症	0.43	0.50	0.20		1.50	0.29	0.40	1.33			
咽頭結膜熱	0.84	0.67	0.60	0.50	0.25	1.43	0.20	4.00	0.67		
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	2.86	1.67	1.70		2.00	4.43	10.40	0.67	1.33	1.00	
感染性胃腸炎	1.23	2.83	0.50		1.25	2.29	2.00	0.33			
水痘	0.02						0.20				
手足口病	0.68		0.70		1.00	0.14		6.00			
伝染性紅斑（リンゴ病）											
突発性発しん	0.18	0.50	0.20			0.43					
ヘルパンギーナ											
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	0.02					0.14					
急性出血性結膜炎											
流行性角結膜炎	0.38						3.00				
細菌性髄膜炎											
無菌性髄膜炎											
マイコプラズマ肺炎	0.08		0.33								
クラミジア肺炎（オウム病は除く）											
感染性胃腸炎（ロタウイルス）											